

平成 17 年食中毒発生状況の概要について

平成 18 年 7 月
厚生労働省食品安全部

1. 発生状況（事件数、患者数、死者数）

平成17年に国内で発生した食中毒事件数は1,545件（対前年 - 121件） 患者数27,019件（対前年 - 1,156人） 死者数7人（対前年 + 2人）であった。

また、患者500人以上の食中毒は2件発生した（前年はなし）。

2. 月別発生状況

食中毒事件の発生は6月から8月の3カ月の事件数で556件と、年間発生件数の36.0%を占めていた。患者数でも、6月から8月にかけては毎月3,000人前後の患者が発生しており、この3カ月で10,613人と年間の患者数の39.3%を占めた。しかし、ノロウイルスによる食中毒が冬季に多く発生し、1～3月及び12月に209件と年間発生数（274件）の76.3%がこの時期に集中した。

3. 病因物質別発生状況

- 病因物質の判明したものは、事件数1,468件(95.0%)、患者数25,810人(95.5%)であった。病因物質別の事件数は、カンピロバクター・ジェジュニ/コリ（645件）ノロウイルス（274件）サルモネラ属菌（144件）腸炎ビブリオ（113件）の順で多かった。病因物質別の患者数は、ノロウイルス（8,727人）サルモネラ属菌（3,700人）カンピロバクター・ジェジュニ/コリ（3,439人）ウェルシュ菌（2,643人）の順で多かった。
- 腸管出血性大腸菌による食中毒は、事件数24件、患者数105人で、すべて血清型O157によるものであった。
- 死者が発生した食中毒事件の病因物質は、植物性自然毒（死者4人、内きのこ3人、トリカブト1人）動物性自然毒（ふぐ毒、死者2人）サルモネラ属菌（死者1人）であった。
- 病因物質別発生状況の年次別推移では、腸炎ビブリオ及びサルモネラ属菌は、事件数、患者数ともに、平成10、11年をピークとして減少傾向がみられるが、他の病因物質と比較するとまだ発生件数が多い。細菌による食中毒では、近年、カンピロバクターが増加傾向にある。
- また、平成9年に病因物質としてノロウイルス（当初は小型球形ウイルス）を追加して以降、ノロウイルスを原因とする食中毒事件が事件数、患者数ともに増加傾向にある。

4．原因食品・施設別発生状況

- 原因食品の判明したものは、事件数874件(56.6%)、患者数24,116人(89.3%)であった。
- 原因食品別の事件数は、魚介類(114件)、肉類及びその加工品(95件)、複合調理食品(83件)、野菜及びその加工品(63件)の順で多かった。
- 原因食品別の患者数は、複合調理食品(4,138人)、次いで肉類及びその加工品(1,138人)、野菜及びその加工品(1,052人)、魚介類加工品(1,000人)の順で多かった。
- 原因施設の判明したものは、事件数941件(60.9%)、患者数25,827人(95.6%)であった。
- 原因施設別の事件数は、飲食店(534件)、家庭(134件)、旅館(83件)の順で多かった。
- 死者が発生した食中毒事件の原因施設は、家庭(死者6人)、飲食店(死者1人)であった。

5．その他

平成17年食中毒発生状況の詳細等については、厚生労働省食品安全部ホームページ「食中毒・食品監視関連情報」(<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/index.html>)で公開している。

表 1 年次別食中毒発生状況

年次	事件数	患者数	死者数
56	1,108	30,027	13
元年	927	36,479	10
6	830	35,735	2
7	699	26,325	5
8	1,217	46,327	15
9	1,960	39,989	8
10	3,010	46,179	9
11	2,697	35,214	7
12	2,247	43,307	4
13	1,928	25,862	4
14	1,850	27,629	18
15	1,585	29,355	6
16	1,666	28,175	5
17	1,545	27,019	7

年次	病因物質	事件数	患者数	死者数
13	サルモネラ属菌	361	4,949	0
	カンピロバクター	428	1,880	0
	腸炎ビブリオ	307	3,065	0
	小型球形ウイルス	269	7,358	0
	その他・不明	563	8,610	4
14	サルモネラ属菌	465	5,833	2
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	447	2,152	0
	腸炎ビブリオ	229	2,714	0
	小型球形ウイルス	268	7,961	0
	その他・不明	441	8,969	16
15	サルモネラ属菌	350	6,517	0
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	491	2,642	0
	腸炎ビブリオ	108	1,342	0
	小型球形ウイルス	278	10,603	0
	その他・不明	358	8,251	6
16	サルモネラ属菌	225	3,788	2
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	558	2,485	0
	腸炎ビブリオ	205	2,773	0
	ノロウイルス	277	12,537	0
	その他・不明	401	6,592	3
17	サルモネラ属菌	144	3,700	1
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	645	3,439	0
	腸炎ビブリオ	113	2,301	0
	ノロウイルス	274	8,727	0
	その他・不明	369	8,852	6

表2 平成17年 死者が発生した食中毒事例

NO.	原因施設 都道府県	発病年月日	原因施設 種別	原因食品名	原因食品種別	病因物質種別	患者 総数	死者 総数	摂食者 総数	性別、年齢
1	愛知県	2005/8/24	家庭	きのこ(ニセクロハツ)のみそ汁	野菜及びその加工品- きのこ類	自然毒- 植物性自然毒	2	2	2	男、60～69 歳 女、60～69 歳
2	鹿児島県	2005/8/7	飲食店	不明(仕出し弁当)	複合調理食品	細菌- サルモネラ属菌	105	1	258	男、70 歳～
3	愛知県	2005/9/18	家庭	しょうさいふぐ(推定) の肝の刺身	魚介類-ふぐ	自然毒- 動物性自然毒	1	1	1	男、50～59 歳
4	岩手県	2005/10/6	家庭	ドクツルタケ	野菜及びその加工品- きのこ類	野菜及びその加工品- きのこ類	2	1	2	女、60～69 歳
5	青森県	2005/4/21	家庭	和え物(トリカブト)	その他-食事特定	自然毒- 植物性自然毒	6	1	6	男、70 歳～
6	長崎県	2005/5/4	家庭	ふぐのみそ汁	魚介類-ふぐ	自然毒- 動物性自然毒	1	1	1	男、70 歳～

表 3 平成 17 年 月別食中毒発生状況

[illegible]

食中毒発生時の行政対応について

食中毒

- 医師、患者、営業者等からの連絡
- 保健所の職員による探知

- 保健所による調査
 - ・ 事件の発生規模等の調査、把握
 - ・ 調査・・・喫食状況調査、施設への立入調査
調理従事者への調査、関係食品、患者検体等の
試験検査
- 保健所による対策
 - ・ 被害者拡大防止対策・・・営業の禁停止
原因食品、食材の回収命令
 - ・ 再発防止対策・・・原因施設に対する衛生状況の改善指導
営業者、消費者等への情報提供
各自治体への情報提供
- 保健所から都道府県等への報告

- 都道府県等から厚生労働省への報告

- 大規模、広域食中毒発生の際には、都道府県等に調査を要請

保健所

都道府県等

厚生労働省

関係部局・省庁

連携